

教科名

美術

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や鑑賞の授業の「思考・判断・表現」に関する問いでは、文章で答える形式でもよく答えていた。 ・鑑賞やポートフォリオ（授業の記録）では自分の考えを簡潔にまとめて書く力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現をさせる場面は、鑑賞の授業やポートフォリオ（授業の記録）、作品カードなどがあるが、発問が曖昧で書きづらい。 ・生徒に作品完成までの流れを伝える方法の工夫が必要である。 ・鑑賞した作品について、振り返ったり復習したりする機会を設けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートなどは曖昧な表現を少なくし、具体的で分かりやすくする。 ・アイデアスケッチから完成までの具体的な時数を示し、制作手順は動画で見ることができるようにする。 ・鑑賞した作品を家庭でも見直したり学習したりできるように、ミライシードやGoogleクラスルームで教材を配信する。
8 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や鑑賞の授業の「思考・判断・表現」に関する問いでは、文章で答える形式になると記入できなくなる生徒がいる。 ・作品制作においては、自らの経験から発想を深めることや、自分の考えや構想を言葉で表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現をさせる場面は、鑑賞の授業やポートフォリオ（授業の記録）、作品カードなどがあるが、発問が曖昧で書きづらい。 ・鑑賞した作品について振り返ったり復習したりする機会を設けていない。 ・相互鑑賞の時間が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートなどは曖昧な表現を少なくし、具体的で分かりやすくする。 ・鑑賞した作品を家庭でも見直したり学習したりできるように、ミライシードやGoogleクラスルームで教材を配信する。 ・相互鑑賞を通して、美的感覚や感性を伸ばす場面を設定する。
9 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学級も真面目に取り組んでいるが、自ら考え判断することが苦手な生徒がいる。 ・石彫の授業では、平面で考えたアイデアを立体へ表すことが苦手な生徒が見られた。 ・鑑賞やポートフォリオ（授業の記録）では、自らの課題と具体的な解決策を文章で記述することが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻などの立体作品を作るために、ワークシートを分かりやすく改善する必要がある。 ・学習内容を見直したり、反復学習したりできるようなものがないため、家庭学習の方法が分かりづらい。 ・作品に込めた思いや考えを文章で記述させる場面が少ないため、多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートは曖昧な表現を少なくし、具体的で分かりやすくする。 ・ミライシードやGoogleクラスルームで授業に関する資料や復習問題を配信することで、授業の復習や振り返りができるようにする。 ・作品制作の際に、表現の根底にある思いや願いなどを作品カード等に記入させる。